様式第３

会　　議　　録

会　　議　　名	令和６年度 自立支援・障がい者差別解消支援地域協議会 第１回（専門部会）相談支援部会
議題及び議題毎の公開又は非公開の別	内容 １　部会長及び副部会長の選出について ２　相談支援業務を行う上での現状と課題 ３　その他
日　　時	令和７年２月２０日（木） 午前１３時３０分から午前１４時２０分まで
場　　所	保健センター３階　第２会議室
出　席　委　員	五十嵐　孝子　　岩井　ひとみ 亀井　宏純　　久保　貴寛 古藤　栄一　　笹木　美来 澤村　浩史　　鈴木　千尋 田口　陽子　　戸邉　里水 中村　成彦　　並木　徹 仁木　純子　　橋本　竜也 小林　謙介　　佐野　清貴 堀上　翔大
欠　席　委　員	浅川　春美　　小野瀬　幸子 野村　祐一　　橋本　諭 石川　友　　今村　素美子
事　　務　　局	榎本　由香梨（障がい者支援課相談支援係長） 鈴木　和也　（障がい者支援課相談支援係主事）
傍　　聴　　者	３名
議　　事	令和６年度自立支援・障がい者差別解消支援地域協議会第１回（専門部会）相談支援部会の会議結果（概要）は、次のとおりである。

	１　　開会
相談支援係長	令和７年２月２０日午後１３時３０分、開会した。 会議録作成のため録音機を使用することの了解を得た。 浅川　春美委員、小野瀬　幸子委員、野村　祐一委員、橋本諭委員、石川　友委員、今村　素美子委員が欠席すること、３名の傍聴希望があったことを報告。 ２　内容 内容１　部会長及び副部会長の選任について 委員の互選により部会長に並木　徹委員、副部会長に五十嵐孝子委員が決まる。 ＜挨拶＞ 以降、並木部会長が会議を進行した。 内容２　相談支援業務を行う上での現状と課題について
並木部会長	議題について事務局より説明を求める。
事務局	委員の皆様は日頃業務を行う上で、様々な課題に直面すると思われるが、課題を解決するため、知識として身につけたいことや、今後の部会で取り上げたいことを各委員に伺いたい。
並木部会長	医療的ケア児者に対する知識や情報が不足していると思われるため、医療的ケア児者に関する研修会等を相談支援部会で行ってもよいのではないか。
田口委員	医療を必要とする児童が通える事業所探しに苦慮することが多いため、教授願いたい。
中村委員	重度の支援を必要とする方の施設の入所先が見つからない。支援者である家族が高齢化している世帯も増えているため、今後の課題と考えている。暮らしの場会議に野田市も参加してほしい。
仁木委員	野田市内に多くのグループホームができ、グループホームへの入居を希望する利用者も増えた。入居希望者がいる際に事業所等と情報共有を行うが、入居してから問題が発生することがあるため、関係機関と連携し問題を解決していきたい。

橋本委員	児童通所支援等のサービスを、ただの子供の預け場所として考えている家庭や事業所があると思う。療育的サービスとはどのようなものなのか、各家庭や事業所に再認識してほしい。 また、医療に対する知識が乏しいため、訪問看護事業所等との横のつながりをもつ機会や、医療についての知識を深めるための勉強会を部会で行いたい。
小林委員	精神科の領域では、統合失調症のみではなく、思春期発達障害や認知症、家族の高齢化など、多岐にわたる課題が増えているため、各連携機関との連携が重要と考える。
佐野委員	認知症や精神疾患を患っている家族に対する支援が大変であるため、精神病院に入院できないかという相談を多く受けている。このような相談を受けた場合、どのような対応を各委員は行っているか教授願いたい。
堀上委員	取り上げてほしいことは特にないが、生活保護のことで困っていることなどがあれば、質問してください。
鈴木委員	多くの事業所が委員として参加しているため、各委員の得意分野等を知りたい。また、自身の所属する社会福祉協議会の活動内容についても周知したい。
沢村委員	生活困窮の相談を主に受けている。横のつながりを深めていきたい。
笹木委員	重度精神障がいの方や発達障がいの方で入所先が決まらない方がいるため、中村委員と同様、暮らしの場会議について検討してほしい。
古藤委員	利用者や保護者の高齢化に伴い、施設入所をしている利用者の支援者が誰もいないケースがある。後見人がついているケースもあるが、後見人の技量に差がある。
久保委員	グループホームへの入居相談をよく受けるようになったが、入居後に借金があることが判明し、法テラスにつなぐことがあった。金銭的トラブルによりグループホームで面倒を見ることができなくなるケースもあり、福祉分野のみでの対応が難しいケースがある。 また、様々な研修が開催されていると思うが、研修の開催情報について、各委員にメール等で周知してほしい。

亀井委員	以前と比べ、野田市にも多くの事業所が設立されてきたが、事業所ごとに支援の質や受入れ体制に差があると感じることがある。また、他市からの転入者について、転入前の市では受けることのできたサービスが、野田市では受けられないようなケースもあり、課題と感じている。
岩井委員	同一家庭において、障害福祉サービスを親と子どものどちらにも提供するケースが増えてきて、多角的方面からの支援を行うように努めている。 課題としては、障害福祉サービスから介護保険のサービスに切り替わる際の手順やケアマネとの情報共有の行い方について、今後学んでいきたい。
五十嵐委員	メンタルヘルスに関する研修会があるといいと思う。
並木部会長	各委員から話があったように、家庭ごとに多方面からの支援が必要になるケースが増えてきている。障害福祉サービスと介護保険のサービスを同一家庭で提供するケースも増えている。連携を深めるためにも、地域包括支援センターの業務の把握や、職員との顔合わせ、協議の場を設けることも必要ではないか。 医療的ケア児者の支援を行っている人から話を聞く機会を設けること、後見人について社会福祉協議会に研修を行ってもらうこともよいと思う。また、他分野との連携や関わりが今後重要になってくるため、相談支援部会のみで完結するのではなく、他の部会との同時開催を行うこともよいと考える。 内容３　その他
事務局	電話リレーサービスについて、周知を行う。 ３　閉会
事務局	今後の開催予定について説明を行う。その他は特に意見がなかったため、午後１４時２０分、閉会を宣言した。